

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100940		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル上小出		
所在地	群馬県前橋市上小出町2丁目13-5		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年6月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様を寝たきりにしないように歩いて移動していただいています。歩行不安定な方には見守りや手引き介助、歩行器も活用し自力で歩行していただいています。排泄も本人が望むなら最期までトイレで排泄できるように介助させていただきます。その方の尊厳を守り、人として本人らしく生活していただけるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人に所属する理学療法士による施設の中庭を利用したのキッズイベントをきっかけに、ヨガ教室や様々なイベントを開催し、地域に開かれた施設を目指して努力している。また、協力医療機関や訪問看護による支援も多く、訪問看護師や作業療法士による利用者への健康管理や状態変化後の見立てなどを行い、医療的支援や介護支援の質の向上に積極的に取り組んでいる。職員に関しても、定期的な業務アンケートを実施し、各職員の意見・提案等を把握することで、各種会議・各種委員会などでスキルアップやケアの向上に務めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 ユニット①

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の「人と心を大切にする」を元に本人家族の希望や訴えを傾聴して希望されている生活を送れるよう思いを大切に実践しています。	法人が設立時に定めた企業理念を、グループホームにも使用している。「生涯家族」を掲げ、利用者も職員も一緒に家族の理念を大切にしている。	職員が理念の持つ言葉の意味を、話し合う機会を検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回施設中庭をキッズイベントで開放、子供達の遊ぶ姿を利用者様見学、職員もキッズイベントやヨガ教室に利用者様と共に参加しています。	グループホームが開設間もない中で、同一企業内の職員発案で、施設中庭を活用してのキッズイベントやヨガ教室を実施し、地域住民にも開放している。また、自治会にも参加して、回覧板の輪に入ることで、今後は地域の夏祭りへの参加を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まずは家族に認知症を理解していただくため症状や対応の説明を行っています。面会時、普段の様子や症状の進行を知っていただいています。地域の方への発信ができていたため町内会入会の機に今後工夫していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面にてやり取りとなっています。施設での出来事を報告し、面会時や電話にて家族の思いやご意見を伺い参考にケアに反映しています。	コロナ禍のため、書面会議にて実施している。意見集約のために「ご意見メモ」を作成しているが、開設間もないため、お互いに不慣れた部分もあり苦慮している。今後、対面での開催を実施し、様々な意見をいただけるよう検討している。	運営推進会議の在り方の検討と、それにもなう参加者の再考を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を市役所に提出。情報を共有し市役所よりご意見をいただきケアに生かしています。	施設の運営状況を会議資料にて共有しながら、行政にしかわからないような質問や相談を行っている。コロナ禍が落ち着いた際には、対面での対話などを積極的に実施したいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを定期的に話し合い、利用者様が閉塞感を感じないように職員付き添いで中庭や公園を散歩しています。スピーチロックにも気を付けて勉強会を行っており、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいます。	玄関の施錠は行っていないが、階段などの危険箇所は職員管理によって施錠している。職員全員が参加する3委員会(拘束、感染、虐待の各委員会)で声掛け方法や個別ケースの事例等を参考に、自ら作成した資料等をもとに、研修会や定例会議・委員会にて研修・検討し、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については法人全体で取り組んでおり、全職員に虐待防止に意識を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者はいないが、学ぶ機会や対象の方がいれば勉強会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を行い同意書を書いていた だいています。一度の説明では十分に伝わらないためサービスを行っていき、疑問に思ったこと、困りごとの相談など、本人家族よりあればその都度説明して解決しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により運営推進会議は書面開催のみのため面会時や電話にて意見、要望を聞いている。入居の問い合わせ家族や施設相談員などへ実際にあった本人家族の要望を解決したエピソードを名前を伏せてお話ししています。	コロナ禍で利用者にも家族にも様々な制限をお願いしていたが、そんな中でも可能な範囲で家族の希望・意見を反映させられないか検討の結果、「犬の散歩」であったり、外泊は難しいが「外出・外食」などが実現している。	家族あてに「運営に関する具体的な提案」をして、意見を求める方策等を検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見を積極的に吸い上げ、サービス内容に反映させ、職員の対応能力を超えないように注意しています。	口頭での職員意見にも対応するが、適宜「アンケート」にて意見を集約している。簡単なものは夕礼時に回答できるが、ケース会議などで具体的に解決策を相談する場合もある。最近では歩行器やセンサーマットの購入希望があり実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員のすき間時間を利用して困りごとなどの相談を行っている。必要に応じて代表者が面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員にOJTシート活用、定期的に法人全体でのWeb研修と社内研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため交流ができていない。グループ企業のサービス内容を共有しケアの参考にしてサービス向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人より傾聴し、今の気持ちや困っていることを伺っている。本人の要望を尊重できるようケアしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族を含めて担当者会議を行っている。ご家族よりよくお話を伺い、ご要望に添えるよう努めており、コミュニケーションを取ることで良好な関係作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の状況を把握して事前に見学、面談などの必要な支援をしている。本人とご家族の要望や意見を聞き、また利用者様の状態を見て判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることできないことを見極め、できないことをお手伝いし一緒に暮らしていけるよう関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望に留まらず、利用者様の話にも耳を傾けて、ご家族とご利用者様をつなぐ支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活支援では今までの生活に近づけるよう支援している。馴染みの人や場所はコロナ禍の関係でなかなかできていないため家族から手紙や写真を提供していただいている。	馴染みの場所へお連れすることは、コロナ禍では難しいが、施設内に馴染みの物品（仏壇や年賀状など）を持ち込んでもらい、内容を聞いて職員との会話や交流に繋げたり、施設内で他利用者との馴染みの関係になっていただけるように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の様子と性格を見てご利用者様同士がより良い関係でいられるよう声掛け等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族の希望に寄り添い、入居中のお写真を印刷し提供している。対話の機会には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から今までの生活スタイルと同じようになるよう話を伺っている。できることは行っていたいただき無理強いないように努めている。	入居時に、家族や本人より教えていただいた様々な情報を元に、日常の会話や支援を通して情報を補強し、職員で共有を行っている。日常業務の中で、個々の利用者の癖やジェスチャーの意味なども申し送りノートに記載して、本人の意向に沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人にお話を伺って職員が把握できるよう共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い健康チェックを行い、日々のできることを把握し職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、日々の目標を立てている。今後計画書にも反映していく予定。	ケアマネジャーが月1回のモニタリングを実施する中、管理者・ケアマネジャー・出勤職員によりカンファレンスを行い、ケース会議等でプランの内容変更などを行なっている。	プランの目標とサービス内容の具体化とともに、一連の記録の整備・整理を検討することでプランとの一貫した記録づくりを検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	紙記録とデータ(タブレット)記録を付け職員同士での共有、計画書への意見を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々新しいことを見つけられるように努力している。利用者様が楽しんでいただけるよう努力している。週一回作業療法士の付き添いの元新しいことへの取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園を散歩し下肢筋力維持向上、バラ園見学、敷島公園までドライブ、花見を行い季節を感じています。訪問理美容の利用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診、主治医とはSNSを活用し症状やケア方法など共有。その他家族の意向も共有し緊急対応がスムーズに行えるようにしています。	入居前の主治医への受診も希望があれば継続しているが、専門外来以外の受診に関しては、送迎が厳しいため、協力医の往診を希望される家族が多い状況である。主治医とはSNSを活用し、必要な情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護来所し、入居者のセルフケア実施、施設職員と情報共有、利用者様の普段の様子を見ていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、個人情報を出し、定期的なソーシャルワーカーと連絡を取り経過を伺う。退院が決まった時はカンファレンスを開催し本人の状態を把握できた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より家族へ終末期に入ったと説明していただいた。ケアの方針を主治医、家族、施設で相談して決めて方針に沿ったケアを実施しています。	重度化し看取りの段階かどうかは、協力医に判断をお願いしている。家族を含めてチームで看取り対応を行い、本人が過ごしたい「暮らす場・過ごす場」を確認して支援している。実際に施設での看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って行動しています。応急処置や初期対応の訓練は定期的に行っていないので行えるようにしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時における避難訓練を年2回実施。消防署に消防計画を提出しています。	年2回の避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防署の立ち合いで、利用者も「利用者」と書いた札を首から下げて避難訓練に参加している。備蓄はオムツと限られた食材など少な目のため、今後検討し準備を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との信頼関係を築く中で言葉遣いを定期的に見直している。本人が立ち入って欲しくない時にはこちらの思いを押し付けずにプライバシーの配慮を行っている。	本人の態度や空気が変わるようなことに関しては、職員で共有し実施しないように注意している。どれだけ丁寧に言っても排泄など「自分でやる」と本人が譲れない部分は、見守りながらご本人が安全に実施していただけるよう工夫・配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できること、ものがあつた場合には自己決定できるように選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まとまってレクリエーションを強制するのではなく、お一人お一人に合わせた対応を行う。静かに過ごしたい人、運動したい人、お話ししていきたい人個人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る洋服が分からなくなってしまう方には、洋服を一緒に選ぶお手伝いをしている。訪問理美容などを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作成や食器洗いなど利用者様ができることを見つけ一緒にやっている。	業者からのメニューや食材が決まっているため、変更は難しいが、食形態の変更(おかゆ・きざみ・とろみなど)や食器などは利用者の希望に併せて対応している。また、家族より少額の現金をお預かりして、パンや希望のおかずなどを購入し、利用者の希望に沿った支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量、毎食記録し、状態の把握をしている。好き嫌いアレルギーを把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けをしを行っている。ご自分では難しい方も仕上げはこちらで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のない方は職員がタイミングを把握し一人一人に合わせトイレ誘導している。夜間はおむつ使用の方も脱衣行為があれば紙パンツに意向している。	利用者個々のその日の雰囲気・行動・食量などで、適切に排泄対応を行っている。また、訪問看護師とも相談して、排泄に関する助言や運動・体操、排便コントロールを行っている。自宅や他施設ではオムツであった方も、リハパンに変更し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行、水分量などで便秘にならないように支援している。それでも便秘になってしまう場合は往診医に相談して薬を処方して早めの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある人は無理に入浴せずに時間をずらしたり翌日に変更して気持ちよく入浴できるよう対応している。	週2回の入浴を基本とし、その日の体調や希望を確認しながら、自らは安全を確認して行っていただき、楽しい時間を実現している。同性介助や入浴介助内容も日々検討し、臨機応変に実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体力を把握し、日中は外気浴を行い適度な運動や午睡時間の検討、夜間の眠る時間の確保、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類を把握できるようにタブレットに入力表示している。目的や副作用は職員も理解できるよう努めている。薬剤師との連携によって薬の飲み合わせや相談を行い支援に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中のお掃除や洗濯物を手伝っていただき、一人一人の役割を作っている。気分転換に中庭や公園の散歩を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望の際は時間を作り、中庭や公園を散歩している。家族や地域の方との交流はコロナ禍の制限があったため行っていない。病院受診が家族対応の方は定期的に出かけている。	コロナ禍で制限があったが、できる範囲で中庭や公園への散歩や、キッズイベントやヨガ教室など施設外での活動支援を行っている。家族の支援が得られた方は個別の外出も行えたが、今後は施設として外出の機会やイベントを増やすことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に現金を持ってきた方にはこちらで預かり金庫にて保管。本人はそれで納得されている。普段施設内で必要なものは小口金を預かり買い物させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話ができる方には携帯電話を職員見守りのもと使用していただいています。ご自分でできない方には職員が仲介をして電話の操作を行い使用していただいています。手紙のやり取りは行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間と夕方掃除を行い清潔を保てるように努力している。ホール内の明かりは時間によって明るさが変わるように設定されている。利用者様と壁画作成を行い季節感をかんじていただく工夫をしている。	共用スペースが広く、家庭のような雰囲気を出せるような家具配置や物品購入を検討している。共用スペースでは音楽を流すことで、集まった利用者が「懐メロ」を歌ったり、窓から見える風景を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は共有のテーブルにて食事をしたり制作活動、レクを行う場所があり、テレビの前にはゆっくり座ってくつろげるソファがあり、時には気の合った同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染のものを用意していただいている。紛失してしまうようなものは本人にも了承を得てご家族に持ち帰っていただいている。	コロナ禍であっても家族と一緒に家具の配置を行い、想いがある物品を持参していただき由来などを確認している。前職が在宅支援をしていた職員が中心となり経験を活かし、本人が落ち着ける環境を家族・職員と一緒に作り上げられるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活史からできることを見つけ、日課にして行っている。できない時があってもすぐに諦めずに再度工夫して行っている。		

自己評価および外部評価結果 ユニット②

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の「人と心を大切にする」を元に本人家族の希望や訴えを傾聴して希望されている生活を送れるよう思いを大切に実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回施設中庭をキッズイベントで開放、子供達の遊ぶ姿を利用者見学、職員もキッズイベントやヨガ教室に利用者と共に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まずは家族に認知症を理解していただくため症状や対応の説明を行っています。面会時、普段の様子や症状の進行を知っていただいています。地域の方への発信がまだできていないため工夫がしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面にてやり取りとなっています。施設での出来事を報告し、面会時や電話にて家族の思いやご意見を伺い参考にしてケアに反映しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を市役所に提出。情報を共有し市役所よりご意見をいただきケアに生かしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアへの出入りの施錠は行っています。施錠に頼らず、その方の周辺症状に対する原因を探り、ケアで対応できるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については法人全体で取り組んでおり、全職員に虐待防止に意識を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者はいないが、学ぶ機会や対象の方がいれば勉強会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を行い同意書を書いていた だいています。一度の説明では十分に伝わらないためサービスを行っていき、疑問に思ったこと、困りごとの相談など、本人家族よりあればその都度説明して解決しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により運営推進会議は書面開催のみのため面会時は電話にて要望、意見を聞いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見を積極的に吸い上げ、サービス内容に反映させ、職員の対応能力を超えないように注意しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員のすき間時間を利用して困りごとなどの相談を行っている。必要に応じて代表者が面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員にOJTシート活用、定期的法人全体でのWeb研修と社内研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため交流ができていない。グループ企業のサービス内容を共有しケアの参考にしてサービス向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人より傾聴し、今の気持ちや困っていることを伺っている。本人の要望を尊重できるようケアしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族を含めて担当者会議を行っている。ご家族よりよくお話しを伺い、ご要望に添えるよう努めておりコミュニケーションを取ることで良好な関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の状況を把握して事前に見学、面談などの必要な支援をしている。本人とご家族の要望や意見を聞き、また利用者様の状態を見て判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることできないことを見極め、できないことをお手伝いし一緒に暮らしていけるよう関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望に留まらず、利用者様の話にも耳を傾けて、ご家族とご利用者様をつなぐ支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活支援では今までの生活に近づけるよう支援している。馴染みの人や場所はコロナ禍の関係でなかなかできていないため家族から手紙や写真を提供していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の様子と性格を見てご利用者様同士がより良い関係でいられるよう声掛け等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族の希望に寄り添い、入居中のお写真を印刷し提供している。対話の機会には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活ペースがあるため日常の支援の中から要望を聞き、できることを日課として行っていただく。共同で作業することによって一体感生まれるよう工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居してから間もなく情報は少ないため個人ファイルの見直しやご家族、本人から話を聞いて日々の支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い健康チェックを行い、日々のできることを把握し職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から意見を聞き、課題や対策を申し送り時間を使って話し合っている。その後評価して介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	紙記録とデータ(タブレット)記録を付け職員同士での共有、計画書への意見を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々新しいことを見つけられるように努力している。利用者様が楽しんでいただけるよう努力している。週一回作業療法士の付き添いの元料理や花の種を植えてやりがいを持たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園を散歩し下肢筋力維持向上、バラ園見学、敷島公園までドライブ、花見を行い季節を感じています。訪問美容の利用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診、主治医とはSNSを活用し症状やケア方法など共有。その他家族の意向も共有し緊急対応がスムーズに行えるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護来所し、入居者のセルフケア実施、施設職員と情報共有、利用者様の普段の様子を見ていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、個人情報を出し、定期的なソーシャルワーカーと連絡を取り経過を伺う。退院が決まった時はカンファレンスを開催し本人の状態を把握できた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より家族へ終末期に入ったと説明していただいた。ケアの方針を主治医、家族、施設で相談して決めて方針に沿ったケアを実施しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って行動しています。応急処置や初期対応の訓練は定期的に行っていないので行えるようにしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時における避難訓練を年2回実施。消防署に消防計画を提出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との信頼関係を築く中で言葉遣いを定期的に見直している。本人が立ち入って欲しくないときにはこちらの都合を押し付けずにプライバシーの配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できること、ものがあつた場合には自己決定できるように選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まとまってレクリエーションを強制するのではなく、お一人お一人に合わせた対応を行う。静かに過ごしたい人、運動したい人、お話ししていたい人個人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の整理を共に行い季節に応じた服装選びができるよう声掛けを行っている。アクセサリーを付ける習慣のある方にはご自分で管理できるようにケースを用意している。訪問美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作成や食器洗いなど利用者様ができることを見つけ一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量、毎食記録し、状態の把握をしている。好き嫌いアレルギーを把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けをして行っていく。夜間義歯の預かりについては声掛け行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方には声掛け見守りを行い、要介助の方は職員がタイミングを把握し一人一人に合わせトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行、水分量などで便秘にならないように支援している。それでも便秘になってしまう場合は往診医に相談して薬を処方して早めの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある人は無理に入浴せずに時間をずらしたり翌日に変更して気持ちよく入浴できるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体力を把握し、日中は外気浴を行い適度な運動や午睡時間の検討、夜間の眠る時間の確保、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類を把握できるようにタブレットに入力し表示している。目的や副作用は職員も理解できるよう努めている。薬剤師との連携によって薬の飲み合わせや相談を行い支援に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中のお掃除や洗濯物を手伝っていただき、一人一人の役割を作っている。気分転換に中庭や公園の散歩を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望の際は時間を作り、中庭や公園を散歩している。家族や地域の方との交流はコロナ禍の制限があったため行っていない。病院受診が家族対応の方は定期的に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に現金を持ってきた方にはこちらで預かり金庫にて保管。本人はそれで納得されている。普段施設内で必要なものは小口金を預かり買い物させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話ができる方には携帯電話を職員見守りのもと使用していただいています。ご自分でできない方には職員が仲立ちをして電話の操作を行い使用していただいています。手紙のやり取りは行えていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間と夕方掃除を行い清潔を保てるように努力している。ホール内の明かりは時間によって明るさが変わるように設定されている。利用者様と壁画作成を行い季節感を感じていただく工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は共有のテーブルにて食事をしたり制作活動、レクを行う場所があり、テレビの前にはゆっくり座ってくつろげるソファがあり、時には気の合った同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染のものを用意していただいている。紛失してしまうようなものは本人にも了承を得てご家族に持ち帰っていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活史からできることを見つけ、日課にして行っている。できない時があってもすぐに諦めずに再度工夫して行っている。		